

BCC CQ18 (8)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>The value of typing basal cell carcinomas in predicting recurrence after surgical excision</b>	
	論文の日本語タイトル	外科的切除後の再発予測としての組織型分類の意義	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ18-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	843446	
	医中誌 ID		
	雑誌名	British Journal of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	96	
	号	2	
	ページ	127-132	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1977	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Sloane J	Department of Histopathology, Royal Postgraduate Medical School
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌の再発予測因子としての組織型分類の意義を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	英国の総合病院	
	対象者	基底細胞癌 134 例の 156 病変	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	組織型	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	症例全体の再発率は 11%。Nodular, nodular with infiltrative margin, infiltrative, multifocal の 4 型に分類し、それぞれの再発率は 6%、12%、25%、30%であった。Infiltrative をさらに sclerosing と non-sclerosing に分けた場合のそれぞれの再発率は 26%、20%であった。		
結論	組織型分類は再発の予測因子として有用。		
備考	1例を除き、6年以内に再発。		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 術後の観察期間についての記載がないため、エンドポイントとしての再発率の信頼性がやや劣るが、著者が設定した組織型分類は現在のスタンダードな分類法にも通じていると思われる。	

BCC CQ18 (9)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Histologic features predictive of basal cell carcinoma recurrence: results of a multivariate analysis</b>	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における組織学的な再発予測因子。多変量解析	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ18-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	8320358	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Cutaneous Pathology	
	雑誌 ID		
	巻	20	
	号	2	
	ページ	137-142	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0303-6987 eISSN: 1600-0560	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1993	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dixon AY	University of Kansas Medical Center
	その他著者 1	Lee SH	
	その他著者 2	McGregor DH	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌における組織学的な再発予測因子を特定する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の 1 総合病院	
	対象者	基底細胞癌の再発 30 例と非再発 74 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	6 因子 (切除断端との距離、増殖パターン、臍巣の形状、辺縁の性状、核の多形性、辺縁の腫状配列)	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	20 の組織学的な因子を含めたモデルでは、切除断端との距離と臍巣の形状が有意な再発の予測因子として選択された。単変量解析で有意とされた上記 6 因子を共変量とした多変量解析では、切除断端との距離と増殖パターンが有意な再発の予測因子として選択された。		
結論	切除断端との距離が短い、臍巣の形状が棘状、増殖パターンが浸潤型、表在型、斑状強皮症型のいずれかの組織学的因子を有する症例については再発のリスクが高いため、それに応じた取り扱いが必要。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 基底細胞癌の再発に影響する組織学的因子を多変量解析で詳細に分析したものであるが、対照とした非再発症例の選択の基準についての記載が乏しい。	

BCC CQ18 (10)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Basal cell carcinoma treated with Mohs surgery in Australia</b>	
	論文の日本語タイトル	オーストラリアにおける基底細胞癌に対する Mohs surgery	
診療科/科/科情報	診療科/科/科での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	診療科/科/科上の目次名称	BCC CQ18-10	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	16112352	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	3	
	ページ	458-463	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2005	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Leibovitch I	Oculoplastic and Orbital Division, Department of Ophthalmology an Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide
その他著者 1		Huilgol C	
その他著者 2		Selva D	
その他著者 3		Richards S	
その他著者 4		Paver R	
その他著者 5			
その他著者 6			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌における神経周囲浸潤の頻度と予後について検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	オーストラリアの大学病院	
	対象者	1993~2002年の基底細胞癌患者 11127例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	Mohs surgery (凍結組織法)	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	神経周囲浸潤の有無	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	283例 (2.74%) に神経周囲浸潤がみられた。Mohs surgery 後 5年経過観察できた 78例のうち、6例 (7.7%) に再発を認めた。神経周囲浸潤の発現に有意に影響する因子は、組織型、腫瘍径、切除後の欠損径、Mohs ステージ数であった。		
結論	神経周囲浸潤はまれな現象ではあるが、再発リスクが高い。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV )	

BCC CQ18 (11)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Histologic pattern analysis of basal cell carcinoma</b>	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の組織学的パターン分類	
診療科/科/科情報	診療科/科/科での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	診療科/科/科上の目次名称	BCC CQ18-11	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	2273112	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	23	
	号	6	
	ページ	1118-1126	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1990	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Sexton M	Department of Pathology, M.S.Hershey Medical Center, The Pennsylvania State University
その他著者 1		Jones D	
その他著者 2		Maloney M	
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の組織学的パターン分類を確立し、切除根治度との関連を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	基底細胞癌 1039例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	外科的切除 467例、シェーブ生検 441例、パンチ生検 130例、キューレッタージュ 1例	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	外科的切除後の組織学的な断端陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2	性率	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	外科的切除後の断端陽性率は、結節型 6.4%、表在型 5.6%、微小結節型 18.6%、浸潤型 26.5%、斑状強皮症型 33.3%。組織型と断端陽性率には有意な相関あり (p<0.001)。		
結論	この 5 型分類はハイリスク症例の選別に有用。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) アウトカムを断端陽性率としているが、外科的切除の具体的な内容が記載されていないため、アウトカムの定義もやや曖昧。	

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外バジレット病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease: prognosis and relationship to internal malignancy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ1-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	13	
	号		
	ページ	1009-14	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1985		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Chanda JJ	Division of Dermatology, Holmes Regional Medical Center
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	乳房外バジレット病の予後と合併内臓悪性腫瘍についての文献レビュー
	データソース	Medline
	研究の選択	不明
	データ抽出	1962年から1982年までの英文論文からの196例と自験例1例の計197例
レビュー研究の6項目	主な結果	乳房外バジレット病は高齢女性に多く、発生頻度は女性外陰部、肛門周囲の順であった。26%が原発あるいは合併内臓癌で死亡。24%が皮膚癌を深部に合併、そのうち46%が死亡。内臓癌合併例は全体で29%。同時合併例(乳房外バジレット病診断の前後1年以内に組織学的に診断)は12%。肛門発生例は消化管癌、陰茎・陰囊・尿管発生例は泌尿生殖器癌、女性外陰部発生例は乳癌および泌尿生殖器癌との部位相関があった。
	結論	乳房外バジレット病は高率に内臓癌を合併し、部位相関性がある。乳房外バジレット病では、消化管および泌尿生殖器系の精査を施行するべきである。
レビュー研究の6項目	備考	合併内臓癌として、子宮頸癌(扁平上皮癌・腺癌)、膀胱癌(移行上皮癌・腺癌)、前立腺癌、腎臓癌、卵巣癌、直腸癌、総排泄腔癌、バルトリン腺癌、乳癌が記載されている。
	レビューワー氏名	清原隆宏
レビュー研究の6項目	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 ) 乳房外バジレット病と合併内臓癌の部位相関性に関する優れた総説であるが、内臓癌の同時合併の定義を乳房外バジレット病診断前後1年以内に組織学的に診断された場合としており、生物学的に正確なデータではない可能性がある。 厳密にはシステマティック・レビューではないが、多数例を詳細に検討しており、現時点ではそれに準ずるものと評価した。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膀胱移行上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Epidermotropic Urothelial Carcinoma Involving the Glans Penis	
	論文の日本語タイトル	PagetCQ1-2	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	121	
	号		
	ページ	532-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1985		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Metcalfe JS	Department of Pathology, Medical University of South Carolina
	その他著者 1	Lee RE	Sumter Urology Associates
	その他著者 2	Maize JC	Departments of Pathology and Dermatology, Medical University of South Carolina
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膀胱移行上皮癌の癌頭部への表皮行性転移の報告		
	研究デザイン	症例報告		
	セッティング	Department of Pathology, Medical University of South Carolina		
	対象者	64歳男性の膀胱移行上皮癌患者		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 2 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 1 )		
	一次研究の8項目	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( 22 )	
		介入 (要因曝露)		
		エンドポイント (77%)	エンドポイント	区分
		1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
一次研究の8項目	主な結果	64歳男性の膀胱移行上皮癌患者が、根治的膀胱切除術後22ヶ月の時点で癌頭部に表皮行性転移を生じた。病理学的および免疫組織学的に乳房外バジレット病と区別できない所見を示し、alcian blue(+),d-PAS(+),CEA(+),PSA(-)であった。免疫所見は原発の膀胱移行上皮癌とも一致していた。		
	結論	膀胱移行上皮癌は癌頭部に表皮行性転移を生じうる。		
一次研究の8項目	備考			
	レビューワー氏名	清原隆宏		
一次研究の8項目	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 症例報告であるが、膀胱移行上皮癌が癌頭部に表皮行性転移を生じる可能性を免疫組織学的に検討した最初の重要な報告である。		

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療科/担当情報	担当科での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	担当科上での目次名称	PagetCQ1-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	BJOG	
	雑誌 ID		
	巻	112	
	号		
	ページ	273-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Shepherd V	Department of Dermatology, Clatterbridge Center for Oncology
	その他著者 1	Davidson EJ	Department of Obstetrics and Gynaecology, Countess of Chester Hospital NHS Trust
	その他著者 2	Davies Humphreys J	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外 Paget 病の文献的レビュー
	データソース	Medline
	研究の選択	特定なし
	データ抽出	不明
	主な結果	乳房外 Paget 病は外陰部癌の 3~5%で、稀な疾患。診断には生検が必要。20~30%に内臓悪性腫瘍の合併があり、詳細な全身検査が必要。手術が治療の第 1 選択であるが、再発率は 40%と高く、術後も長期に亘る経過観察が必要であった。手術のほかには、放射線治療、外用または全身的化学療法、レーザー治療、光学的治療、Mohs micrographic surgery などが試行されている。
	結論	乳房外パジェット病では、詳細な全身検査が必要で、胸部 XP・骨盤超音波・IVP・マンモグラフィーのみならず、膀胱鏡・子宮鏡・腹腔鏡・大腸内視鏡検査を施行すべきである。各種治療法の有用性を検証するためには、多施設共同の前向き無作為対照試験が必要である。
備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 ) ごく最近までの文献を網羅した乳房外 Paget 病に関する最も優れた総説。しかし、参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低いが、症例数と報告数がそれ程多くない疾患での貴重な論文である。厳密にはシステマティック・レビューではないが、現時点ではそれに準ずるものと評価した。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Perianal Paget's Disease: a histologic and immunohistochemical study of 11 cases with and without associated rectal adenocarcinoma</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/担当情報	担当科での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	担当科上での目次名称	PagetCQ1-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	22	
	号	2	
	ページ	170-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1998		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Goldblum JR	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, the Cleveland Clinic Foundation
	その他著者 1	Hart WR	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門パジェット病に対する免疫組織化学的検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, the Cleveland Clinic Foundation	
	対象者	肛門原発パジェット病および直腸癌のパジェット現象	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (91社)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	肛門原発パジェット病 6 例中 4 例で、CK7+CK20-/GCDFFP15+、残り 2 例は CK7+CK20+/GCDFFP15+であった。直腸癌合併 4 例全例で、CK7+CK20+/GCDFFP15+であった。		
結論	肛門原発パジェット病と直腸癌のパジェット現象の鑑別にサイトケラチン 20 と GCDFFP15 による免疫組織化学染色は有用である。とくに GCDFFP15 陽性の場合、有用性は高い。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患 タイプ	乳房外パジェット病 医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Perianal Paget's Disease: distinguishing primary and secondary lesions using immunohistochemical studies including gross cystic disease fluid protein-15 and cytokeratin 20 expression</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療・介入情報	診療・介入での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	診療・介入上の日次名称	PagetCQ1-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Pathol Lab Med	
	雑誌 ID		
	巻	122	
	号		
	ページ	1077-81	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1998		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Nowak MA	Department of Pathology, Western Reserve Care System, A Division of Forum Health
	その他著者 1	Guerriere-Kovach P	同上
	その他著者 2	Pathan A	同上
	その他著者 3	Campbell TE	同上
	その他著者 4	Deppisch LM	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門パジェット病に対する免疫組織化学的検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Pathology, Western Reserve Care System, A Division of Forum Health	
	対象者	肛門原発パジェット病 2例および肛門癌のパジェット現象 3例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (773A)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	肛門原発パジェット病 2例全例で、CK7+CK20+GCDFP15+、直腸癌合併 3例全例で、CK7+CK20+GCDFP15+であった。		
結論	肛門原発パジェット病と直腸癌のパジェット現象の鑑別にサイトケラチン 20 と GCDFP15 による免疫組織化学染色は有用である。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患 タイプ	乳房外パジェット病 医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Vulvar Paget's disease: a clinicopathologic and immunohistochemical study of 19 cases</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療・介入情報	診療・介入での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	診療・介入上の日次名称	PagetCQ1-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	21	
	号	10	
	ページ	1178-87	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1997		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Goldblum JR	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, The Cleveland Clinic Foundation
	その他著者 1	Hart WR	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	外陰部パジェット病に対する免疫組織化学的検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, The Cleveland Clinic Foundation	
	対象者	外陰部原発パジェット病 18 例および膀胱移行上皮癌のパジェット現象 1 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (773A)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	外陰部原発パジェット病 16例中 14例で、CK7+CK20+GCDFP15+、残り 2 例は CK7+CK20+GCDFP15+であった。膀胱移行上皮癌合併 1例で、CK7+CK20+GCDFP15+であった。		
結論	外陰部原発パジェット病と膀胱移行上皮癌のパジェット現象の鑑別にサイトケラチン 20 と GCDFP15 による免疫組織化学染色は有用である。とくに GCDFP15 陽性の場合、有用性は高い。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	膀胱移行上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>The pagetoid variant of bladder urothelial carcinoma in situ: a clinicopathological study of 11 cases</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での日次名称	PagetCQ1-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Virchows Arch	
	雑誌 ID		
	巻	441	
	号	148-53	
	ページ		
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2002		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lopez-Beltran A	Department of Pathology, Cordoba University Medical School and Reina Sofia University Hospital
	その他著者 1	Luque RJ	Princesa de Espana Hospital
	その他著者 2	Moreno A	Infanta Margarita Hospital
	その他著者 3	Bolito E	Dpt. of Pathology, San Luigi Gonzaga Hospital
	その他著者 4	Carmona E	筆頭著者と同じ
	その他著者 5	Montironi R	Dpt. of Pathology, University of Ancona
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	pagetoid variant の膀胱移行上皮癌に対する免疫組織化学的検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Urology, Reina Sofia University Hospital; Infanta Margarita Hospital; Department of Pathology, San Luigi Gonzaga Hospital	
	対象者	Pagetoid variant の上皮内膀胱移行上皮癌 11 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	Pagetoid variant の上皮内膀胱移行上皮癌 11 例での検討で、多くが CK7+/CK20+/thrombomodulin+であった。		
結論	外陰部原発バジネット病と pagetoid variant の上皮内膀胱移行上皮癌の鑑別にサイトケラチン 20 による免疫組織化学染色は有用である。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	乳癌およびアポクリン腺癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Immunohistochemistry of a Gross Cystic Disease Fluid Protein (GCDFFP-15) of the Breast: a marker of apocrine epithelium and breast carcinomas with apocrine features</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での日次名称	PagetCQ2-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	110	
	号		
	ページ	105-12	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1983		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mazoujian G	Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital
	その他著者 1	Pinkus GS	Department of Pathology, Harvard Medical School
	その他著者 2	Davis S	Mnlory Institute of Pathology
	その他著者 3	Haagensen Jr DE	Department of Surgery, Harvard Medical School
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	正常組織および腫瘍における GCDFFP-15 の局在の検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital	
	対象者	乳癌組織 2 例、乳癌由来性腫瘍 8 例、乳癌以外の正常組織 73 例、乳癌 30 例、その他の腫瘍 41 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 22 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	免疫組織化学的に GCDFFP-15 はアポクリン汗腺 (腋窩、外陰部、眼瞼、外耳道)、アポクリン化生を伴う乳癌組織、唾腺液 (顎下腺)、耳下腺、気管支粘膜下腺に局在していることが証明された。乳癌 30 例中 14 例で染色され、そのうち 12 例ではアポクリン分泌を示していた。食道、消化管、肺、肝臓、腎臓、前立腺、卵巣、子宮の良性あるいは悪性腫瘍では染色されなかった。		
結論	GCDFFP-15 はアポクリン上皮の特異的組織マーカーである。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) GCDFFP-15 のアポクリン上皮に対する特異性を示した最初の優れた論文である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	乳房および乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Mammary and Extramammary Paget's Disease: an immunocytochemical and ultrastructural study</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/科情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ2-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	69	
	号		
	ページ	1173-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月			
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ordóñez NG	Department of Pathology, University of Texas M.D. Anderson Hospital
	その他著者 1	Awalt H	同上
	その他著者 2	MacKay B	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	パジェット細胞の特徴および起源の検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Department of Pathology, University of Texas M.D. Anderson Hospital	
	対象者	パジェット病 21 例 (乳房 8 例、女性外陰部 11 例、肛門 2 例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別不詳 ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別不詳 ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (7/7)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	全例において、パジェット細胞は単層上皮型ケラチン (PKK1、35 β H11) 陽性、金皮型ケラチン (34 β E12) 陰性。乳房 4 例、女性外陰部 6 例、肛門 1 例において GCDFFP-15 陽性。GCDFFP-15 は正常エクリンおよびアポクリンの分泌部と導管部の両者にも陽性。電顕的にはパジェット細胞は豊富なムチン小滴を有していた。		
結論	パジェット細胞は腺癌細胞であり、乳房および乳房外パジェット病は内臓癌の直接浸潤の場合がある。		
備考			
レビューコメント	レビュー氏名	清原隆宏	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) パジェット病の起源を検討した初期の論文である。肛門管癌からパジェット現象を生じた肛門例 1 例が GCDFFP-15 陽性であったとしているが、詳細な記載がなく、肛門管原発か肛門癌か不明である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	各種癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Cytokeratin 20 in Human Carcinomas: a new histodiagnostic marker detected by monoclonal antibodies</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/科情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ2-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号		
	ページ	427-47	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1992		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Moll R	Institute of Pathology, University of Mainz Medical School
	その他著者 1	Lowe A	同上
	その他著者 2	Laufer J	同上
	その他著者 3	Franke WW	Institute of Cell and Tumor Biology, German Cancer Research Center
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	各種癌における cytokeratin20 発現の検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Institute of Pathology, University of Mainz Medical School	
	対象者	各種の原発癌あるいは転移癌 711 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別不詳 ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別不詳 ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (7/7)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	癌における CK20 の発現は、正常上皮における発現 (胃腸管上皮、尿路系上皮、メルケル細胞) に類似した。大腸癌で最も陽性率が高く (89/93)、その他、移行上皮癌、メルケル細胞癌、粘液産生卵巣腫瘍、胃・胆嚢・膵臓の腺癌で陽性であった。扁平上皮癌や乳腺・肺・子宮の腺癌、非粘液産生卵巣腫瘍、肺小細胞癌では陰性であった。		
結論	癌、特に転移癌の鑑別に CK20 は有用である。		
備考			
レビューコメント	レビュー氏名	清原隆宏	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 各種癌に対する CK20 の発現を大規模に検討した最初の論文である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Perianal Paget's Disease: a histologic and immunohistochemical study of 11 cases with and without associated rectal adenocarcinoma</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/科/科情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	論文以上の目次名称	PagetCQ2-4 PagetCQ2-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	22	
	号	2	
	ページ	170-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1998		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Goldblum JR	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, the Cleveland Clinic Foundation
	その他著者 1	Hart WR	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	肛門パジェット病に対する免疫組織化学的検討		
研究デザイン	症例対照研究		
セッティング	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, the Cleveland Clinic Foundation		
対象者	肛門原発パジェット病 6例および直腸癌のパジェット現象 5例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )		
介入 (要因曝露)			
エンドポイント (7外注)	エンドポイント	区分	
一次研究の 8 項目	1	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	肛門原発パジェット病 6例中 4例で、CK7+/CK20+/GCDFFP15+、残り 2例は CK7+/CK20+/GCDFFP15-であった。直腸癌合併 4例全例で、CK7+/CK20+/GCDFFP15-であった。		
結論	肛門原発パジェット病と直腸癌のパジェット現象の鑑別にサイトケラチン 20 と GCDFFP15 による免疫組織化学染色は有用である。とくに GCDFFP15 陽性の場合、有用性は高い。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Vulvar Paget's disease: a clinicopathologic and immunohistochemical study of 19 cases</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/科/科情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	論文以上の目次名称	PagetCQ2-5 PagetCQ2-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	21	
	号	10	
	ページ	1178-87	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1997		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Goldblum JR	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, The Cleveland Clinic Foundation
	その他著者 1	Hart WR	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	外陰部パジェット病に対する免疫組織化学的検討		
研究デザイン	症例対照研究		
セッティング	Department of Anatomic Pathology, Division of Pathology and Laboratory Medicine, The Cleveland Clinic Foundation		
対象者	外陰部原発パジェット病 18例および膀胱移行上皮癌のパジェット現象 1例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )		
介入 (要因曝露)			
エンドポイント (7外注)	エンドポイント	区分	
一次研究の 8 項目	1	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	外陰部原発パジェット病 18例中 14例で、CK7+/CK20+/GCDFFP15+、残り 2例は CK7+/CK20+/GCDFFP15-であった。膀胱移行上皮癌合併 1例で、CK7+/CK20+/GCDFFP15-であった。		
結論	外陰部原発パジェット病と膀胱移行上皮癌のパジェット現象の鑑別にサイトケラチン 20 と GCDFFP15 による免疫組織化学染色は有用である。とくに GCDFFP15 陽性の場合、有用性は高い。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	



形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Perianal Paget's Disease: distinguishing primary and secondary lesions using immunohistochemical studies including gross cystic disease fluid protein-15 and cytokeratin 20 expression</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/科の情報	引文での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	引文上での目次名称	PagetCQ2-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Pathol Lab Med	
	雑誌 ID		
	巻	122	
	号		
	ページ	1077-81	
	JSSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1998		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Nowak MA	Department of Pathology, Western Reserve Care System, A Division of Forum Health
	その他著者 1	Guerriere-Kovach P	同上
	その他著者 2	Pathan A	同上
	その他著者 3	Campbell TE	同上
	その他著者 4	Deppisch LM	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門パジェット病に対する免疫組織化学的検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Pathology, Western Reserve Care System, A Division of Forum Health	
	対象者	肛門原発パジェット病 2 例および直腸癌のパジェット現象 3 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	肛門原発パジェット病 2 例全例で、CK7+/CK20-/GCDFP15+、直腸癌併合 3 例全例で、CK7+/CK20+/GCDFP15+であった。		
結論	肛門原発パジェット病と直腸癌のパジェット現象の鑑別にサイトケラチン 20 と GCDFP15 による免疫組織化学染色は有用である。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	膀胱移行上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>The pagetoid variant of bladder urothelial carcinoma in situ: a clinicopathological study of 11 cases</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療科/科の情報	引文での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	引文上での目次名称	PagetCQ2-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Virchows Arch	
	雑誌 ID		
	巻	441	
	号		
	ページ	148-53	
	JSSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2002		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Lopez-Beltran A	Department of Pathology, Cordoba University Medical School and Reina Sofia University Hospital
	その他著者 1	Luque RJ	Princesa de Espana Hospital
	その他著者 2	Moreno A	Infanta Margarita Hospital
	その他著者 3	Bollito E	Dpt. of Pathology, San Luigi Gonzaga Hospital
	その他著者 4	Carmona E	筆頭著者に同じ
	その他著者 5	Montironi R	Dpt. of Pathology, University of Ancona
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	pagetoid variant の膀胱移行上皮癌に対する免疫組織化学的検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Urology, Reina Sofia University Hospital; Infanta Margarita Hospital; Department of Pathology, San Luigi Gonzaga Hospital	
	対象者	Pagetoid variant の上皮内膀胱移行上皮癌 11 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	Pagetoid variant の上皮内膀胱移行上皮癌 11 例での検討で、多くが CK7+/CK20+/thrombomodulin+であった。		
結論	外陰部原発パジェット病と pagetoid variant の上皮内膀胱移行上皮癌の鑑別にサイトケラチン 20 による免疫組織化学染色は有用である。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であり、免疫組織化学染色による鑑別の精度は評価不能である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Microscopically Controlled Surgery for Extramammary Paget's Disease</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ3-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	115	
	号		
	ページ	706-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1979		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mohs FE	Chemosurgery Clinic, University of Wisconsin Medical Center
	その他著者 1	Blanchard L	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病に対する Mohs micrographic surgery の有効性の検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Chemosurgery Clinic, University of Wisconsin Medical Center	
	対象者	4 例の切除後再発および 1 例の未切除乳房外パジェット病	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (79)3A)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	1 例の切除後再発乳房外パジェット病に対し fixed-tissue chemosurgical technique を、残りの 4 例に対し fresh-tissue chemosurgical technique を施行し、4 ヶ月から 9 年の経過観察で、全例において局所再発がなかった。また、過去の報告を検証し、通常の手術療法に対する乳房外パジェット病の局所再発率が 44% と高率であることを報告している。		
	結論	Mohs micrographic surgery は乳房外パジェット病の局所再発率を低下させることができる。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であるが、説得力のある論文である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Extramammary Paget's disease of the genitalia with clinically clear margins can be adequately resected with 1 cm margin</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ3-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Eur J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	3	
	ページ	168-70	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Murata Y	兵庫県立成人病センター皮膚科
	その他著者 1	Kumano K	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病の皮膚側切除マージンを検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	兵庫県立成人病センター皮膚科	
	対象者	肉眼的境界明瞭な外陰部乳房外パジェット病 46 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	肉眼的境界明瞭な乳房外パジェット病に対し、皮膚側切除マージン 1cm での切除	
	エンドポイント (79)3A)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	46 例 359 枚の術後標本を検討したところ、腫瘍辺縁と切除線の組織学的距離は 10.2±2.48mm (range: 4.5 to 18.5mm)であった。29 例 137 枚の術後標本を検討したところ、肉眼的境界と組織学的境界の誤差は 0.334±1.183 (range: -3.0 to +5.4mm)であった。46 例全例で局所再発はなかった。		
	結論	肉眼的境界明瞭な乳房外パジェット病の皮膚側切除マージンは 1cm で十分である。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	清原隆宏	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 外用療法などの術前処置の重要性についても強調されており、肉眼的境界不明瞭な症例に対する切除マージンについては今後の検討課題である。	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患 タイプ	乳房外パジェット病 医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Vulvar Paget's Disease: a topographic study</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療# '体'ラビ情報	引'ラ'での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	引'ラ'の上での日次名称	PagetCQ3-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号		
	ページ	590-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1980		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Gunn RA	Department of Pathology, The University of Texas System Cancer Center, M.D. Anderson Hospital and Tumor Institute
	その他著者 1	Gallager HS	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目		目的	女性外陰部乳房外パジェット病の肉眼的および組織学的病変の比較検討
研究デザイン		症例集積研究	
セッティング		Department of Pathology, The University of Texas System Cancer Center, M.D. Anderson Hospital and Tumor Institute	
対象者		4 例の女性外陰部乳房外パジェット病	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
介入 (要因曝露)		vulvectomy	
エンドポイント (7分岐)		エンドポイント	
1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果		切除組織の subserial total sectioning により腫瘍細胞の広がりを示す map を作成したところ、組織学的病巣の境界は不規則で、多巣性に存在し、肉眼的境界をはるかに越えて分布していた。	
結論		女性乳房外パジェット病の組織学的病巣は、境界不規則、多巣性で、肉眼的境界をはるかに越えて分布している。	
備考			
レビュワー氏名		清原隆宏	
レビュワーコメント		エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であるが詳細な検討をされており、説得力のある論文である	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患 タイプ	乳房外パジェット病 医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Vulvar Paget's Disease: a topographic study</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療# '体'ラビ情報	引'ラ'での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	引'ラ'の上での日次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号		
	ページ	590-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1980		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Gunn RA	Department of Pathology, The University of Texas System Cancer Center, M.D. Anderson Hospital and Tumor Institute
	その他著者 1	Gallager HS	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目		目的	女性外陰部乳房外パジェット病の肉眼的および組織学的病変の比較検討
研究デザイン		症例集積研究	
セッティング		Department of Pathology, The University of Texas System Cancer Center, M.D. Anderson Hospital and Tumor Institute	
対象者		4 例の女性外陰部乳房外パジェット病	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
介入 (要因曝露)		vulvectomy	
エンドポイント (7分岐)		エンドポイント	
1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果		切除組織の subserial total sectioning により腫瘍細胞の広がりを示す map を作成したところ、組織学的病巣の境界は不規則で、多巣性に存在し、肉眼的境界をはるかに越えて分布していた。	
結論		女性乳房外パジェット病の組織学的病巣は、境界不規則、多巣性で、肉眼的境界をはるかに越えて分布している。	
備考			
レビュワー氏名		清原隆宏	
レビュワーコメント		エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であるが詳細な検討をされており、説得力のある論文である	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	組織学的に病巣の範囲を検討した腋窩および外陰部 Paget 病の 4 例	
診療# '体' 'ラ' の情報	# '体' 'ラ' での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	# '体' 'ラ' 上での目次名称	PagetCQ4-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	西日皮膚	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号	5	
	ページ	1118-21	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )		
発行年月	1984		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	藤井 義久	大分大学皮膚科
	その他著者 1	白石 信之	同上
	その他著者 2	松永 悦治	同上
	その他著者 3	高安 進	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	乳房外パジェット病の病巣の組織学的分布の検討	
研究デザイン	症例集積研究	
セッティング	大分大学皮膚科	
対象者	外陰部 3 例、腋窩部 1 例の乳房外パジェット病	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 1 )	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( 22 )	
介入 (要因曝露)	3-4cm の皮膚側切除マージンをとり切除	
アウトカム (アウトカム)	エンドポイント	区分
一次研究の 8 項目	1	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	切除組織から腫瘍細胞の広がりを示す map を作成したところ、組織学的病巣は皮膚を超えて分布し、不連続にみられる部分も確認された。	
結論	乳房外パジェット病の組織学的病巣は肉眼的境界を越えて分布し、時には不連続なこともある。	
備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 解析対象が少数であり、さらに術前処置についての記載がないため、皮膚側切除マージンについての評価は不明である。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	乳房外 Paget 病の治療: 特にマージンの幅と所属リンパ節郭清について	
診療# '体' 'ラ' の情報	# '体' 'ラ' での引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	# '体' 'ラ' 上での目次名称	PagetCQ4-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	5	
	号	1	
	ページ	86-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )		
発行年月			
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	坂井 秀彰	金沢大学皮膚科
	その他著者 1	田中 武司	同上
	その他著者 2	高田 実	同上
	その他著者 3	谷口 滋	同上
	その他著者 4	広根 孝衛	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	乳房外パジェット病の切除マージンと所属リンパ節郭清の必要性の検討	
研究デザイン	症例対照研究	
セッティング	金沢大学皮膚科	
対象者	外陰部 9 例、肛門 1 例の乳房外パジェット病	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 1 )	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( 22 )	
介入 (要因曝露)	切除 ( 3 cm 以上あるいは未満)	
アウトカム (アウトカム)	エンドポイント	区分
一次研究の 8 項目	1	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	切除マージンを全周において 3cm 以上とった 5 例では切除断端に腫瘍細胞は認められず、切除マージンが全周または一部において 3cm 未満であった 5 例中 4 例では切除断端に腫瘍細胞が認められた。	
結論	乳房外パジェット病の皮膚側切除マージンは 3cm 以上必要である。	
備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	清原隆宏
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 解析対象が少数であり、さらに術前処置についての記載はないが、説得力のある論文である。症例数が少なく症例集積研究とも言えるが、詳細に分析されておりレベル 1V と評価した。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	Mapping biopsy 法を施行した乳房外 Paget 病 17 例の組織学的検討	
診療* 仕* り* の* 情* 報	* 仕* り* の* 引* 用* 有* 無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	* 仕* り* の* 上* の* 日* 次* 名* 称	PagetCQ4-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号	2	
	ページ	172-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )		
発行年月	1999		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	織田知明	近畿大学医学部附属病院皮膚科
	その他著者 1	山田秀和	同上
	その他著者 2	手塚 正	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病の皮膚側切除マージンを検討する。	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	近畿大学医学部附属病院皮膚科	
	対象者	Mapping biopsy 法を施行した乳房外パジェット病 17 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	肉眼的境界部から外側に 3cm および 6cm 離れた部分を mapping biopsy	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	組織学的に検討した。3cm 部では 136 例中 6 箇所(4.4%)で、6cm 部では 136 例中 1 箇所(0.7%)でパジェット細胞が確認された。		
結論	乳房外パジェット病では少なくとも 3cm の皮膚側切除マージンが必要で、切除マージン決定には mapping biopsy が有用である。		
備考			
レビューコメント	レビュー氏名	清原隆宏	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 症例数は少ないが、詳細に検討された論文である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Extramammary Paget's disease: surgical treatment with Mohs micrographic surgery</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療* 仕* り* の* 情* 報	* 仕* り* の* 引* 用* 有* 無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	* 仕* り* の* 上* の* 日* 次* 名* 称	PagetCQ4-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologic Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	51	
	号		
	ページ	767-73	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2004		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hendi A	Department of Dermatology, Mayo Clinic
	その他著者 1	Brodland DG	Department of Dermatology, private practice
	その他著者 2	Zitelli JA	Department of Dermatology, University of Pittsburgh School of Medicine
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病に対する Mohs micrographic surgery(MMS)の有効性と必要な皮膚側切除マージンの検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Department of Dermatology, Mayo Clinic	
	対象者	初発 19 例および MMS 以外の方法での切除の後に局所再発した 8 例の乳房外パジェット病	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	初発あるいは MMS 以外の手術療法後に局所再発した乳房外パジェット病に対し MMS を施行したところ、局所再発率はそれぞれ 16%(3/19)と 50%(4/8)、5 年無再発率はそれぞれ 80%と 56%であった。腫瘍細胞を消失させるに必要な切除マージンの平均は 2.5cm、切除マージン 2cm および 5cm ではそれぞれ 59%と 97%の症例で組織学的に腫瘍消失が得られた。また、過去の局所再発の報告を検討・比較すると、MMS の局所再発が他の標準的手術療法よりも低いことを示していた。		
結論	MMS は他の標準的な手術療法より優れている。広範囲切除を選択する場合の皮膚側切除マージンは 5cm 必要である。		
備考			
レビューコメント	レビュー氏名	清原隆宏	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 過去の報告の検討は研究デザインが異なるため、単純に比較はできないが、よく検討された文献である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Extramammary Paget's disease of the genitalia with clinically clear margins can be adequately resected with 1 cm margin</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ4-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Eur J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	3	
	ページ	168-70	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Murata Y	兵庫県立成人病センター皮膚科
	その他著者 1	Kumano K	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病の皮膚側切除マージンを検討する。		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	兵庫県立成人病センター皮膚科		
	対象者	肉眼的境界明瞭な乳房外パジェット病 46 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別区別せず ( 1 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )		
	介入 (要因曝露)	肉眼的境界明瞭な乳房外パジェット病に対し、皮膚側切除マージン 1cm での切除を施行		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
主な結果	46 例 359 枚の術後標本を検討したところ、腫瘍辺縁と切除縁の組織学的距離は 10.2±2.48mm (range: 4.5 to 18.5mm)であった。29 例 137 枚の術後標本を検討したところ、肉眼的境界と組織学的境界の誤差は 0.334±1.183 (range: -3.0 to +5.4mm)であった。46 例全例で局所再発はなかった。			
結論	肉眼的境界明瞭な乳房外パジェット病の皮膚側切除マージンは 1cm で十分である。			
備考				
レビューワーコメント	レビューワー氏名	清原隆宏		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 外用療法などの術前処置の重要性についても強調されており、肉眼的境界不明瞭な症例に対する切除マージンについては今後の検討課題である。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic diagnosis (PDD) が腫瘍細胞の浸潤範囲確認に有用であった乳房外 Paget 病 (陰部) の 2 例	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日本皮膚科学会雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	111	
	号	10	
	ページ	1501-1504	
	ISSN ナンバー	0021-499X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )		
発行年月	2001		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	清水純子	愛知医科大学医学部皮膚科
	その他著者 1	玉田康彦	
	その他著者 2	中瀬古裕乃	
	その他著者 3	矢野克明	
	その他著者 4	松本義也	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病における PDD の有効性の検証		
	研究デザイン	症例報告		
	セッティング	愛知医科大学医学部皮膚科		
	対象者	乳房外パジェット病患者 2 人		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別区別せず ( 1 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)		
	介入 (要因曝露)	ブラックライトを使用した ALA 外用による PDD		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	病理所見との一致	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )	
主な結果	症例 1: 紅斑部にはほぼ一致して PDD 陽性であり、生検により同陽性部に腫瘍細胞が認められた。症例 2: 再発性乳房外 Paget 病で、PDD により、紅斑部のみならず一見正常にみえる植皮部にも赤色蛍光を認め、生検により腫瘍細胞を確認した。			
結論	Paget 細胞の浸潤範囲は PDD 陽性部にはほぼ一致しており、PDD が腫瘍細胞の浸潤範囲の診断に有用であった。			
備考				
レビューワー氏名	八田尚人			
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 日本で実際に行われている PDD の手法・結果についての報告			

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外バジレット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy for 50 patients with skin cancers or precancerous lesions	
	論文の日本語タイトル	皮膚癌および前癌性病変に対する PDT による治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID	1665364	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Chin Med Sci J	
	雑誌 ID		
	巻	6	
	号	3	
	ページ	163-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1991, Sep		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wang, J.	PUMC Hospital
	その他著者 1	Gao, M.	
	その他著者 2	Wen, S.	
	その他著者 3	Wang, M.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	皮膚癌および前癌性病変に対する PDT の有効性の検証	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	PUMC Hospital	
	対象者	皮膚癌および前癌性病変を有する患者 50 人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	He-Ne レーザーを使用した HpD 静注による PDT	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍の消失	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
主な結果	乳房外バジレット病 4 例中 2 例で有効、2 例で有効であった。		
結論	PDT は乳房外バジレット病の治療に有用である。		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 乳房外バジレット病の治療に PDT を施行した初期の報告。他疾患を多く含む乳房外バジレット病に関する詳細は記載されていない。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外バジレット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy in the management of neoplasms of the perianal skin	
	論文の日本語タイトル	乳房外バジレット病の PDT による治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID	1365690	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg	
	雑誌 ID		
	巻	127	
	号	12	
	ページ	1436-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1992, Dec		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Petrelli, N. J.	Department of Surgical Oncology, Roswell Park Cancer Institute
	その他著者 1	Cebollero, J. A.	
	その他著者 2	Rodriguez-Bigas, M.	
	その他著者 3	Mang, T.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門の皮膚癌における PDT の有効性の検証	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Dermatology, Roswell Park Cancer Institute	
	対象者	肛門の皮膚癌患者 4 人 (乳房外バジレット病 1 例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	アルゴンドレーザーを使用した Photofrin 静注による PDT	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍の消失	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
主な結果	治療 6 カ月後腫瘍は消失し再発はみられない		
結論	PDT は肛門の皮膚癌の治療に有用である。		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 肛門の皮膚癌について述べた論文で、中に 1 例乳房外バジレット病が含まれているが、組織学詳細は記載されていない。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy for inoperable vulval Paget's disease using delta-aminolaevulinic acid: successful management of a large skin lesion	
	論文の日本語タイトル	手術不能腫瘍パジェット病の ALA による治療：巨大皮膚病変の良好なコントロール	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-4	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	10468815	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	141	
	号	2	
	ページ	347-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1999, Aug		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Henta, T.	防衛医大皮膚科
	その他著者 1	Itoh, Y.	
	その他著者 2	Kobayashi, M.	
	その他著者 3	Ninomiya, Y.	
	その他著者 4	Ishibashi, A.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	乳房外パジェット病における PDT の報告	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	防衛医大皮膚科	
	対象者	74 歳女性遠隔転移を伴う外陰部乳房外パジェット病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 2 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	ハロゲンランプを使用した ALA 外用および局注による PDT	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍の消失	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
主な結果	10 回 PDT により 20 x 25cm の巨大腫瘍は臨床的・組織学的にも消失した		
結論	緩和治療として PDT は有用である		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 手術不能例に PDT を用いた症例報告。浸潤性腫瘍に対して ALA を生食に溶かして局注している点がユニークである。緩和治療として十分な効果が得られている点が評価される。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	肛門の新生物	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy for residual neoplasms of the perianal skin	
	論文の日本語タイトル	肛門に残存した新生物の PDT による治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-5	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	10789745	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dis Colon Rectum	
	雑誌 ID		
	巻	43	
	号	4	
	ページ	499-502	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2000, Apr		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Runfoia, M. A.	Department of Surgical Oncology, Roswell Park Cancer Institute
	その他著者 1	Weber, T. K.	
	その他著者 2	Rodriguez-Bigas, M. A.	
	その他著者 3	Dougherty, T. J.	
	その他著者 4	Petrelli, N. J.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	肛門新生物における PDT の報告	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Surgical Oncology, Roswell Park Cancer Institute	
	対象者	1名の肛門パジェット病、2名の有棘細胞癌、2名の Bowen 病	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (14)	
	介入 (要因曝露)	レーザーを使用したフォトフィリンの全身投与による PDT	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍の消失	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
主な結果	治療直後に紅斑、36-48 時間後に水疱形成し、72 時間後に脱落した。5.2 (1.8) 年の経過観察中 2 例に再発した。1 例はパジェット病で 4 年後に再発した。1 例は Bowen 病の治療 9 カ月後に再発し、切除により良好な経過を得られている。4 例で治療後高度の疼痛がみられたが、モルヒネの静注で軽減した。		
結論	手術後の残存腫瘍の治療に PDT は有用である		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 治療のしにくい状況での PDT 使用例。再発が 40%にみられた。		



一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy for the treatment of extramammary Paget's disease	
	論文の日本語タイトル	光線力学療法による乳房外パジェット病の治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-6	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I V )	
	Pubmed ID	12072068	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	146	
	号	6	
	ページ	1000-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2002 Jun		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Shieh, S.	Department of Dermatology, Roswell Park Cancer Institute
	その他著者 1	Dee, A. S.	
	その他著者 2	Cheney, R. T.	
	その他著者 3	Frawley, N. P.	
	その他著者 4	Zeitouni, N. C.	
	その他著者 5	Oseroff, A. R.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病における PDT の有用性を調べる	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Department of Dermatology, Roswell Park Cancer Institute	
	対象者	5人の男性乳房外パジェット病患者 16病巣、うち 11病巣は外科治療後の再発病巣	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 15 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 5 )	
	介入 (要因曝露)	ALA 外用 PDT	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍の退縮	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
主な結果	16病巣中 8病巣に 6ヶ月後の時点で腫瘍の完全退縮(CR)を認め、うち 3病巣は 9-10ヶ月後に再発した。効果が不十分な 1例ではフォトフィリンの全身投与による PDT を施行し CR が得られた。		
結論	乳房外パジェット病の治療に PDT が有用である		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 複数例の乳房外パジェット病の治療に PDT を施行した数少ない報告。有効率が 50%、再発率が 38%。再発率が高いが、繰り返し治療することで局所のコントロールを行っている。有用性の根拠として手術療法後の再発率 31.6%と比較しているが、本邦の報告と比べ極めて高いので信頼性に欠ける。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Successful photodynamic therapy of vulval Paget's disease using a novel patch-based delivery system containing 5-aminolevulinic acid	
	論文の日本語タイトル	パッチ剤を用いた新しい ALA 外用法による女性外陰部パジェット病の PDT による治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID	15383120	
	医中誌 ID		
	雑誌名	BJog	
	雑誌 ID		
	巻	111	
	号	10	
	ページ	1143-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2004, Oct		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Zawislak, A. A.	Department of Gynaecology, Belfast City Hospital
	その他著者 1	McCarron, P. A.	
	その他著者 2	McCluggage, W. G.	
	その他著者 3	Price, J. H.	
	その他著者 4	Donnelly, R. F.	
	その他著者 5	McClelland, H. R.	
	その他著者 6	Dobbs, S. P.	
	その他著者 7	Woolfson, A. D.	
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病における PDT の有効性の検証	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Department of Gynaecology, Belfast City Hospital	
	対象者	乳房外パジェット病患者 何例?	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 5 )	
	介入 (要因曝露)	ALA を含有した接着テープ	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	女性外陰部の病変に対して ALA を含有した接着テープを貼付し、5時間貼付した後 630nm の赤色光を用いて PDT を行った。治療開始 3ヶ月後の時点で組織学的に腫瘍は消失した。		
結論	ALA を含有した接着テープを用いた PDT は乳房外パジェット病の治療に有用である。		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 光感受性物質の投与方法は未だに最適化されておらず、新しい方法を試みた貴重な報告		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease of the perianal region	
	論文の日本語タイトル	肛門の乳房外パジェット病	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID	15109389	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Colorectal Dis	
	雑誌 ID		
	巻	6	
	号	3	
	ページ	206-209	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2004, May		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Tulchinsky, H.	Department of Surgery B, Tel-Aviv Sourasky Medical Centre
	その他著者 1	Zmora, O.	
	その他著者 2	Brazowski, E.	
	その他著者 3	Goldman, G.	
	その他著者 4	Rabau, M.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門乳房外パジェット病の治療法の検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Department of Surgery B, Tel-Aviv Sourasky Medical Centre	
	対象者	肛門乳房外パジェット病患者 5人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	4 例は手術療法を、5 例中 2 例に PDT を施行した。2 例は残存病変はなく、2 例に再発、1 例は残存している。		
結論	再発率が高いため、初期治療として外科的切除に代わる方法を考慮すべきである		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V )  初期治療として PDT を施行した例は部分消退にとどまっている。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	5-Aminolevulinic acid-based photodynamic therapy for the treatment of two patients with extramammary Paget's disease	
	論文の日本語タイトル	乳房外パジェット病 2例の ALA を用いた PDT	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ5-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID	15906538	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号	2	
	ページ	97-101	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2005, Feb		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mikasa, K.	愛知医科大学皮膚科
	その他著者 1	Watanabe, D.	
	その他著者 2	Kondo, C.	
	その他著者 3	Kobayashi, M.	
	その他著者 4	Nakaseko, H.	
	その他著者 5	Yokoo, K.	
	その他著者 6	Tamada, Y.	
	その他著者 7	Matsumoto, Y.	
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病における PDT の有効性の検証	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	愛知医科大学皮膚科	
	対象者	乳房外パジェット病患者 2人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	ALA 外用後ラップで ODT を行い、エキシマダイレーザーによる PDT を行った。1 例は 3 カ月後再発なし、1 例は 2 カ月後辺縁に再発したが、再び PDT を行い 2 カ月後病変なし。		
結論	PDT は乳房外パジェット病の治療に有用である。		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V )  ALA の ODT とエキシマレーザーの組み合わせによる PDT で良好な成績を報告している。光線の深達度と光感受性の投与方法に関して考察している。		

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病		
	タイプ	臨床専門情報		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Novel dermatologic uses of the immune response modifier imiquimod 5% cream		
	論文の日本語タイトル	新しい免疫賦活化薬 5%イミキモドクリーム の皮膚疾患への応用		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ6-1		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（VI）		
	Pubmed ID	12548325		
	医中誌 ID			
	雑誌名	Skin Therapy Lett		
	雑誌 ID			
	巻	7		
	号	9		
	ページ	1-6		
	ISSN ナンバー			
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)			
発行年月	2002 Nov			
著者情報	氏名			
	所属機関			
	筆頭著者	Berman, B.	Department of Dermatology and Cutaneous Surgery, University of Miami School of Medicine.	
	その他著者 1	Poochareon, V. N.		
	その他著者 2	Villa, A. M.		
	その他著者 3			
	その他著者 4			
	その他著者 5			
	その他著者 6			
	その他著者 7			
	その他著者 8			
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	imiquimod の皮膚疾患に対する有用性の総説	
	研究デザイン	総説	
	セッティング		
	対象者		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
			1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	イミキモドは免疫を賦活化することによりウイルス性皮膚疾患、皮膚腫瘍に有効性を発揮する。ウイルス性疣贅以外に基底細胞癌、日光角化症、表皮内癌、悪性黒色腫、皮膚 T 細胞リンパ腫、乳房外パジェット病にも有効であった。		
結論	多くの皮膚疾患に imiquimod は有用である		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (VI) イミキモドの皮膚疾患に対する有用性に関する総説		

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病		
	タイプ	臨床専門情報		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of limited extent extramammary Paget's disease with 5 percent imiquimod cream		
	論文の日本語タイトル	5%イミキモドクリームによる乳房外パジェット病の治療		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ6-2		
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（V）		
	Pubmed ID	16638390		
	医中誌 ID			
	雑誌名	Dermatol Online J		
	雑誌 ID			
	巻	12		
	号	1		
	ページ	22		
	ISSN ナンバー			
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)			
発行年月	2006			
著者情報	氏名			
	所属機関			
	筆頭著者	Badgwell, C.	Department of Dermatology, Baylor College of Medicine, Houston, Texas, USA.	
	その他著者 1	Rosen, T.		
	その他著者 2			
	その他著者 3			
	その他著者 4			
	その他著者 5			
	その他著者 6			
	その他著者 7			
	その他著者 8			
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病におけるイミキモドの有用性を調べる	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Department of Dermatology, Baylor College of Medicine, Houston	
	対象者	78 歳女性大腿側乳房外パジェット病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	週 3 回 16 週間 5%イミキモドクリーム外用	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	腫瘍の退縮
主な結果	16 週後びらん形成のため治療を中止した。2 週後には上皮化。6 カ月後の生検で腫瘍の残存はなかった。その後の 9 カ月間再発の徴候なし。		
結論	病変が限局した乳房外パジェット病の治療にイミキモドが有用である		
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 1 例報告であるが、他の皮膚腫瘍に対する成績からもイミキモドの有用性が示唆される。但し、発生部位が硬毛のない大腿部であり、陰部発生例と同様に論じることはできない。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of extramammary Paget disease with topical imiquimod cream: case report and literature review	
	論文の日本語タイトル	イミキモドクリーム外用による乳房外パジェット病の治療:症例報告と過去の報告例の検討	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
書誌情報	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ6-3	
	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID	16634252	
	医中誌 ID		
	雑誌名	South Med J	
	雑誌 ID		
	巻	99	
	号	4	
	ページ	396-402	
	ISSN ナンバー		
雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )		
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2006 Apr		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Cohen, P. R.	Dermatologic Surgery Center of Houston, Houston, TX, USA.
	その他著者 1	Schulze, K. E.	
	その他著者 2	Tschen, J. A.	
	その他著者 3	Hetherington, G. W.	
	その他著者 4	Nelson, B. R.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病の治療における imiquimod の有効性の検証		
	研究デザイン	症例報告		
	セッティング	Dermatologic Surgery Center of Houston		
	対象者	75 歳男性白人外陰部乳房外パジェット病患者		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず ( 2 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 1 )		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず ( 5 )		
	介入 (要因曝露)	週 3 回計 16 週 5%imiquimod クリーム外用		
	エンドポイント (7外外)	エンドポイント	区分	
		腫瘍の消失	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )	
主な結果	組織学的に腫瘍の残存はみられなかった。9 カ月後再発なし。			
結論	乳房外パジェット病の治療に imiquimod は有用である			
備考				
レビューワー氏名	八田尚人			
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( V ) 対照とした病巣が 2x1.5cm と小さく、実際の臨床応用には疑問がある。考察で過去の報告例 9 例を集積しており、9 例中 7 例で完全消退、2 例で部分消退という結果であった。			

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sentinel lymph node biopsy in cutaneous melanoma: the WHO Melanoma Program experience	
	論文の日本語タイトル	皮膚悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検: WHO メラノーマプログラムにおける経験	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( )	
書誌情報	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ7-1	
	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	7	
	号	6	
	ページ	469-74	
	ISSN ナンバー		
雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )		
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2000		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Cascinelli, N.	
	その他著者 1	Belli, F.	
	その他著者 2	Santinami, M.	
	その他著者 3	Fait, V.	
	その他著者 4	Testori, A.	
	その他著者 5	Ruka, W.	
	その他著者 6	Cavaliere, R.	
	その他著者 7	Mozzillo, N.	
	その他著者 8	Rossi, C. R.	
	その他著者 9	MacKie, R. M.	
その他著者 10	Niewieg, O.		
その他著者 11	Pace, M.		

一次研究の 8 項目	その他著者 12	Kirov, K.	
	目的	SLN によりリンパ節摘出が必要な患者を選択する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	WHO Melanoma Program に登録した 12 施設	
	対象者	829 人の stage I 悪性黒色腫患者 (1994 年 2 月から 1998 年 8 月まで)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	センチネルリンパ節の生検	
	エンドポイント (7外外)	エンドポイント	区分
	1	センチネル陽性	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	SLN 陽性率は 18%であった。術中迅速診断は 39% に行われたが有用性は陽性例の 47% にとどまった。SLN 陽性の原発巣の厚さは < 1mm: 2%; 1-1.99 mm: 7%; 2-2.99 mm: 13%; and > or = 3 mm: 31%であった。SLN 陽性でリンパ節摘出を行った例 22%に NonSLN の転移が判明した。SLNB に伴う合併症の報告はなかった。40 例 (6%) は SLN 陰性であったが後にリンパ節転移が出現し、摘出をおこなった。多変量解析ではセンチネルリンパ節陽性が (P = .000) 腫瘍の厚さ (P = .001)、潰瘍化 (P = .015) と共に有意な予後因子であった。SNB は容易で安全な方法であることが確認された。		
結論	SNB は容易で安全な方法であることが確認された。		